

新潟県における舟と水上交通

岩野 邦康（新潟市新津鉄道資料館）

はじめに

新潟県では1990年代以降、舟・水上交通に係る発掘事例が増えている。従来の発掘成果とそれらを俯瞰し整理した研究を鶴巻康志が行っている（鶴巻1999,2006）。本稿では鶴巻の整理に依拠し、あわせて発表者の主たる関心領域である新潟県下越地方の平野部における木造船の民俗例を紹介する。

出土した丸木舟・舟材

新潟県内では、中～下越地方の信濃川・阿賀野川下流域での出土例が多く、上越・佐渡地方の出土例が少ない傾向がある。また、ほとんどの事例が井戸枠に転用された材であるため、船首・船尾構造が推測できるものは少ない。

【縄文時代】

縄文時代晩期末の丸木舟が②青田遺跡（丸数字は図1、表1と対応）から出土している。山田昌久は、この船の特徴として、1. 船底部が平坦にカットされているということ、2. 船体の作りが薄いことを上げている（山田2004）。

【弥生時代】

④加治川分水路開削工事の際、1923（大正12）年に船底材が出土している（鶴巻1999）。刳り残しの横梁構造をもつ。

【古墳時代】

船底の可能性のある転用材が⑥腰廻遺跡から出土している。

【奈良平安時代】

ホゾ穴、チキリ穴、釘穴、カスガイ痕のある井戸枠転用舟材が出土している。（⑤曾根遺跡、⑨小丸山遺跡、⑭沖ノ羽遺跡⑯半ノ木遺跡、⑱木崎山遺跡）。⑲古川遺跡（図5）のものは刳り残しの横梁構造をもつ。⑫川根A遺跡からは1951（昭和26）年に古代の丸木舟が出土している。

【鎌倉室町時代】

タタラ穴、ホゾ穴、釘穴痕のある井戸枠に転用された舟材が出土している。（⑦下前川原遺跡、⑧山木戸遺跡、③住吉遺跡）。

【江戸時代】

⑮馬場屋敷遺跡から板舟の側板を転用した井戸枠が出土している。舟釘、チキリなどが使用されており、民俗例のイタアワセ、ナガフネなどの板舟と同じ技術を用いたものである。

水上交通関係の遺構

①蔵ノ坪遺跡からは平安時代の「津」の文字のある墨書土器、「少目御館米五斗」「□□□□所信」の文言のある荷札木簡が出土しており、荷札のついた米俵は、他所から紫雲寺潟を利用して船で運ばれてきたものと考えられている。

⑩駒首潟遺跡・⑰門前遺跡などの川岸に位置する遺跡では、平安時代の建物の遺構とともにテラス状の平坦面が見つまっている。これらは荷揚げ、荷さばきを行う河岸的な役割を担っていた可能性が高い。

舟の構造（その変遷）や使用形態、造船技術―蒲原平野の民俗例から

越後の木造和船の特徴として、海岸部、内水面ともに刳材を使用するオモキ造りの船と板舟が併存していた点があげられる（表2）。

【ナガシブネの板船化】

赤羽正春はもともとオモキ造りの船だった阿賀野川河口のナガシブネが、オモキの位置に角材を利用することによって板舟化していったことを報告している。刳舟が板舟に変化していく事例として興味深い。信濃川河口のチョロ（オモキ造り）と阿賀野川河口のナガシブネは歴史博物館 2007）、前者は新潟市歴史博物館が、後者は新潟市北区郷土博物館が FRP で巻かれた状態の船を収蔵している。なんらかの方法で断面構造を比較したい。

【点在する刳舟型田舟】

蒲原平野に広がる湿地地帯では、農家が家ごとにイタアワセを所有し使用する「船農業」が近世期の新田開発以降に発達した。湿地の中で稲を運搬する大型の田舟であるキツォは、イタアワセと同じ一枚棚構造である。ところが蒲原平野各地の博物館・資料館に、刳る技法のみで製作したキツォ（刳舟型田舟）が収蔵されている。現在出土例、民俗例などからこの舟の分布・使用形態について調査している。

【下越地方の刳舟と板舟の分布】

下越地方の民俗例では、阿賀野川河口より北にオモキ造りの海船がない。北蒲原郡海岸部より北には、一本水押二枚棚構造のカワサキ型の海船のみが分布している。一方、阿賀野川河口より西側には、ナガシブネ、チョロ、ドブネなどのオモキづくりの海船が分布している。オモキづくりではないが、船首、船尾の構造に刳舟の痕跡と思われる特徴をもつマルキも多数使用されていた。

内水面に目を転ずると、胎内川・加治川流域より北は、川漁に使用する刳材を用いたカワフネが分布し、南西には湿地地帯の農家を使用した一枚棚構造の板舟であるイタアワセが分布している。こういった分布状況は、造船技術というよりも、船に対する需給バランスが大きな影響を与えていると考えられる。

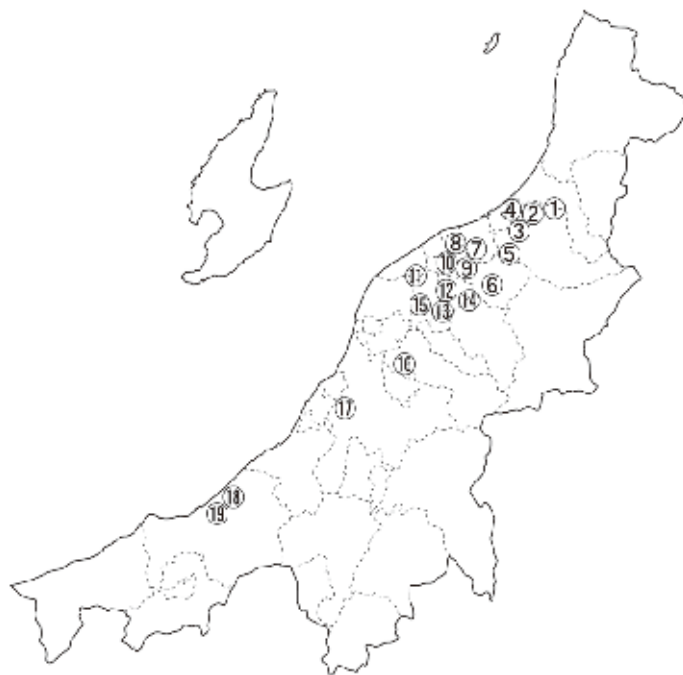


図1 新潟県内の出土事例

表1 新潟県内の出土事例

No	遺跡名	所在地	出土資料・遺構	時代・特徴・備考
①	蔵ノ坪遺跡	胎内市(旧中条町)船戸	「津」の墨書土器・荷 札木簡	平安時代
②	青田遺跡	新発田市(旧加治川村)金塚	丸木舟	縄文晩期
③	住吉遺跡	新発田市(旧紫雲寺町)中島	井戸枳転用舟材	鎌倉時代(13～14C 前半)
④	次第浜 (加治川分水路)	新発田市次第浜	丸木舟	弥生～古墳初
⑤	曾根遺跡	新発田市(旧豊浦町)竹俣万代	井戸枳転用舟材	平安時代(9C) チキリ
⑥	腰廻遺跡	阿賀野市(旧笹神村)山倉	転用舟材	古墳時代
⑦	下前川原遺跡	新潟市北区(旧豊栄市)三ツ森川原	井戸枳転用舟材	鎌倉時代(13C) 舷側のホゾ穴など
⑧	山木戸遺跡	新潟市東区山木戸	井戸枳転用舟材	鎌倉時代(14C 中葉)。タタラ。釘穴など
⑨	小丸山遺跡	新潟市江南区大江山	井戸枳転用舟材	平安時代(9～10C) チキリ。釘穴など
⑩	駒首潟	新潟市江南区(旧亀田町)亀田新通	テラス状遺構	平安時代(9C)
⑪	緒立C遺跡	新潟市西区黒島	井戸枳転用舟材	古代
⑫	川根△遺跡	新潟市秋葉区(旧新津市)川根	丸木舟	古代?
⑬	*大沢谷内遺跡	新潟市秋葉区(旧小須戸町)	井戸枳転用舟材	鎌倉時代。現地説明会資料より
⑭	沖ノ羽遺跡	新潟市秋葉区(旧新津市)	井戸枳転用舟材	平安時代(9C)
⑮	馬場屋敷遺跡	新潟市南区(旧白根市)庄瀬	井戸枳転用舟材	江戸時代(19C)。板船
⑯	半ノ木遺跡	三条市(旧栄村)岡野新田	井戸枳転用舟材	平安時代(9C)ホゾ穴
⑰	門新遺跡	長岡市(旧和島村)上桐	テラス状遺構。延長 6 年漆紙文書	平安時代(10C)
⑱	木崎山遺跡	上越市吉川区	井戸枳転用舟材	平安時代。カスガイによる補修
⑲	古川遺跡	上越市吉川区(旧吉川町)大乘寺	井戸枳転用舟材	古代。横梁状剥残し

表2 蒲原平野の主な木造和船

1. 海の船

船型名	テンマ	マルキ	ドブネ	サンパ	テント	カワサキ	ベザイ
船首の構造	水押づくり	ジョー	ハナキリ※	水押づくり			水押づくり
シキ・タナの構造	一枚棚	一枚棚	オモキづくり	二枚棚			三階づくり (タナ板が三枚)

2. 河口の船

船型名	チョロ	ナガシブネ
船首の構造	(オッタテか?)	(オッタテか?)
シキ・タナの構造	オモキづくり	オモキづくり

3. 内水面の船

船型名	オシアゲブネ	刳舟型田舟	キツゾ	イタワセ	ナガフネ	コウレンボウ
船首の構造	(オッタテづくり)	—	オッタテづくり			コウレンボウづくり
シキ・タナの構造	(一枚棚)	丸木舟	一枚棚			4枚の側板をアバラで支える構造

【参考文献】

- 赤羽正春 1981 「新潟県川舟造船技術の系譜—川舟から海船へ—」『民具マンスリー』14-9
- 笹神村教育委員会編 2002 『腰廻遺跡』
- 清水潤三 1955 「新潟県中蒲原郡川根丸木舟」『日本考古学年報』3
- 新保誠吾 2000 『竹直下片南部遺跡・古川遺跡』吉川町教育委員会
- 豊栄市教育委員会編 2004 『下前川原遺跡』
- 鶴巻康志 1999 「加治川分水出土の丸木舟と弥生土器」『北越考古学』10
- 鶴巻康志 2006 「新潟平野における古代・中世の刳舟について」新潟考古学会談話会発表
- 豊浦町教育委員会編 1981 『曾根遺跡Ⅰ』
- 豊浦町教育委員会編 1982 『曾根遺跡Ⅱ』
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団編 2002 『蔵ノ坪遺跡』
- 山田昌久 2004 『青田遺跡 本文・観察表編』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団編
- 新潟県教育委員会編 1973 『北陸高速自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 新潟県教育委員会編 1992 『木崎山遺跡』
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団編 2003 『沖ノ羽遺跡 3 (C地区)』
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団編 2004 『青田遺跡 図面図版編』
- 新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団編 2009 『西部遺跡Ⅳ・桜林遺跡Ⅲ』
- 新潟市教育委員会編 1987 『新潟市小丸山遺跡発掘調査概報』
- 新潟市教育委員会編 2004 『新潟市山木戸遺跡』
- 新潟市史編さん原始古代中世史部会編 1994 『新潟市史 資料編1 原始古代中世』
- 新潟市埋蔵文化財センター編 2009 『駒首遺跡 第3・4次調査』
- 新潟市歴史博物館 2007 『船と船大工』
- 新津市教育委員会編 2000 『川根遺跡発掘調査報告書』
- 古川百作 1982 「川根の丸木舟発掘」『新津郷土誌』9
- 和島村教育委員会編 2005 『門新遺跡 谷地地区Ⅱ』